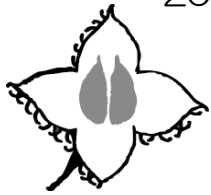


2013年 秋号 No.20 (2013年 11月 15日発行)



只見町ブナセンターだより

企画展

只見の野生動物とその生態

<期 間>

2013年 10月 12日 (土) ~ 12月 28日 (土)



10月12日(土)から開催している「只見の野生動物とその生態」では、只見町の野生動物の生息状況や生態、人との関わり(狩猟)を写真入りのパネルで分かりやすく解説しています。また、剥製や関係書籍などの展示も行っています。

■町外展示(只見の自然環境や生活文化を紹介します)

「自然首都・只見」宇都宮展

開催日: 2014年 1月11日(土) ~ 1月19日(日) 10:00 ~ 18:00

開催場所: 栃木県立博物館 エントランスホールにて展示

講演会: 「只見町の自然と暮らし」、「ユネスコエコパークから見る只見町の魅力と可能性」を予定



只見町ブナセンター

開館時間: 午前9時~午後5時(最終受付は午後4時まで) 休館日: 火曜日(祝祭日の場合は翌平日)

入館料: 高校生以上 300円 小中学生 200円 未就学児無料(20人以上は団体割引)

■Tel 0241(72)8355 ■web <http://www.tadami-buna.jp>

■fax 0241(72)8356 ■E-mail info-buna@amail.plala.or.jp

【活動報告】

■企画展

〈水辺林の不思議な世界〉



2013年7月28日から9月30日の期間で、企画展「水辺林の不思議な世界」を開催しました。

水辺林の魅力や重要な役割について、写真入りの解説パネルで紹介したほか、「水辺林に見られる植物標本」、「ヤナギ類の発根状況の比較」などを展示したほか、「水辺林に生息する生き物の標本展示」など、水辺林が育む生き物たちと人との関わりについて展示を行いました。

私たちにとっても身近な水辺林ですが、養蜂の重要な蜜源にもなっています。

来場された方からは、「内容は難しかったけれど、生きたカエルや魚の標本が展示してあって面白かった」「水辺林がどんな役割を持っているかがわかった」という感想が聞かれました。

■ブナセンター講座 〈水辺林の生態とその役割〉 8月3日（土）



崎尾均先生（新潟大学教授）をお招きし、水辺林の生態と役割についてブナセンター講座を開催しました。崎尾先生は30年以上に渡り、森林の変化や樹木の生活史について、全国各地はじめ、海外でも野外調査を中心とした研究をされてきました。

講座では、「水辺林とはどういうものか」から「その機能と今起きている問題」というように、様々な角度から水辺林についてお話していただきました。

水辺林は、上流の溪畔林、中流の河畔林、下流と大きく景観や環境が変化するとともに機能も変わってきます。生き物たちの隠れ家や餌場の提供、大きな洪水の際に流木を抑える効果や養蜂業、水産業、水質浄化と水質維持、レクリエーションへの利用など、水辺林と人との関わりなども説明していただきました。

水辺林は、洪水などにより「攪乱」することによって保たれていますが、最近では、川の流れが人の手によって管理されることで、攪乱が減っているそうです。人間にとっては、大きな被害をもたらす洪水ですが、水辺林の更新には、一役かっているという重要な役割を持っています。

21名の方が聴講され、質疑応答では様々な質問が上がるなど「水辺林」に対する理解がより深まった講座となりました。

■自然観察会 〈崎尾先生と歩くブナの天然林〉8月4日(日)



ブナセンター講座と合わせて、叶津地区・木ノ根沢のブナの天然林を歩き溪畔林を知る！自然観察会「崎尾先生と歩くブナの天然林」が開催されました。

観察地である叶津川上流に位置する木ノ根沢のブナの天然林は、普段は一般の立ち入りを制限している場所で、只見町の中でも自然度の高い貴重なブナの天然林です。

森の入り口で、鈴木和次郎ブナセンター館長から“雪食地形”や“モザイク植生”など、「只見町における森林の特徴」について説明がありました。

林内では、ブナの樹皮に付着している地衣類で積雪がどこまであったかがわかる事や、日本海側の気候に適したユキツバキが林床に見られるなど「多雪地帯のブナ林」についてお話がありました。

また、樹齢 300 年前後のブナの巨木が立ち並ぶ林内では、木の根沢ブナ天然林のモニタリング調査と世代交代についてお話がありました。

川のそばの林では、崎尾均氏（新潟大学教授）から「河川と密接に結びついた溪畔林の構造と機能」や「多雪地帯の溪畔林の特徴」について説明があり、皆熱心に話を聞いていました。

質疑応答では、「ブナが水分を吸い上げるメカニズム」や「ブナの寿命」、「溪畔林の多様性」など様々な疑問があがり、崎尾先生より丁寧な説明をいただきました。

当日は天候にも恵まれ、町内外から 32 名の参加がありました。セミの羽化やショウキラン、トリアシショウマやエゾアジサイなど夏の花を見ることもでき、楽しい観察会となりました。

■写真教室 〈大田木地師集落とブナの天然林〉9月8日(日)



布沢の大田木地師集落跡で猪又かじりさんによる写真教室が開催されました。

観察地である大田木地師集落跡では、木地師が生活していた跡を見ることができます。

写真教室を始める前に現地では、鈴木和次郎ブナセンター館長より、木地師とその集落について説明がありました。集落内では、木地師の墓地が残されており、ここでも墓地についての解説がありました。

その後、猪又かじりさんによる写真教室が行われ、木地師集落内で解説を受けながら写真を撮影しました。植林により発達したスギの人工林や沢沿いに広がる根曲がりのブナ、可憐な草花など、場所によって様々な表情を見せてくれます。

撮影後、森の分校ふざわに移動し、大田木地師集落で撮影した写真をかじりさんに講評していただきました。その中で“様々な表現方法があり、それに適したアングルがある”ということが解りました。この日は、あいにくの雨天でしたが、町内外から 13 名の参加があり、写真を撮る！という楽しさを感じられる写真教室となりました。

■「自然首都・只見」展 郡山市 9月18日(水)～9月22日(日)



9月18日から22日までの5日間、郡山市ビッグアイ市民ふれあいプラザにおいて、「自然首都・只見」展を開催しました。

この展示は、日本有数の豪雪地帯である只見町の自然環境や、雪と暮らし育まれた生活文化を、町外の方々に広く知っていただくという主旨で行われています。

来場された方々からは、「小さいころに訪れたことがあるが、また行ってみたいになった。」「雪がすごいのでなかなか冬は行くことが出来ないが、是非行ってみたい」などの感想が寄せられました。

22日の(日)には、午前「只見の自然と暮らし」、午後には「ユネスコエコパークから見る只見町の魅力と可能性」という講演会が行われ、意見交換の場にもなりました。

5日間で134名の方が来場され、只見町の自然や文化について知っていただくことが出来ました。次は、ぜひ只見町に訪れて、自然や文化に触れて頂ければと思います！

■日本生物圏保存地域（ユネスコエコパーク）ネットワーク会議

10月25日(金)～26日(土)



文部科学省が主催する国内既存のユネスコエコパーク（「志賀高原」、「白山」、「大台ヶ原・大峰山」、「屋久島」、「綾」）と国内推薦が決定した「只見」、「南アルプス」の関係者が集まる日本生物圏保存地域（ユネスコエコパーク）の第1回ネットワーク会議が只見町で開催されました。

この会議は、各ユネスコエコパークでの取組の紹介を通じ、国内のユネスコエコパーク担当者間で意見交換をし、課題について議論し、各地域におけるユネスコエコパーク活動の推進を図ることを目的として開催され、国内では初めての取組となりました。

25日の会議は一般公開され、登録地域と推薦決定地域の担当者から各ユネスコエコパークの特徴や取組が報告されました。日本MAB計画委員会からはアジア地域の生物圏保存地域のネットワーク会合についての報告がありました。26日の会議は非公開とされ、前日の報告を踏まえ、ユネスコエコパークの活動に関する担当者間の情報・意見交換が行われました。

今後、ネットワーク会議を通じて、各地域の取組の情報共有が図られ、それぞれの地域での課題解決への糸口に活用されることが期待されます。

■地域シンポジウム ユネスコエコパークと地域振興 10月27日（月）



前日までのネットワーク会議に引き続き行われた只見町主催のシンポジウムは、只見町のユネスコエコパーク登録に向けた只見町民、周辺市町村、関係機関の共通認識を図るとともに、ユネスコエコパーク内での自然環境や生物多様性の保護・保全を図りつつ、そうした自然環境や天然資源を持続可能な形で利活用を図ることによる地域社会・経済の活性化の実現に向けた覚悟を確認することを目的に開催されました。

基調講演は、佐藤哲氏（総合地球環境学研究所副所長、「地域環境知プロジェクト」プロジェクトリーダー）より「国際的な仕組みを取り入れ使いこなす～地域環境知とユネスコエコパーク」と題した講演をいただきました。続いて、各ユネスコエコパーク担当者からのユネスコエコパークの活用事例の紹介、最後に、「ユネスコエコパークを通じた地域振興を図る」をテーマとしたパネルディスカッションが行われました。

只見町は、伝統的に天然資源を持続可能な形で利活用した住民生活・文化があり、まさにユネスコエコパークが実現を目指す人と自然との調和のとれた関係があります。そうした地域住民の知識や技術を基盤に、ユネスコエコパークという国際的な制度を有効に活用し、研究者、科学者の科学知あるいは行政、一般企業、一般市民の知識を共有、融合させることで新たな知識、技術が生まれ、地域社会の抱える課題解決の道が拓かれ、地域の活性化が図られることが期待されます。

■只見町ブナセンター 運営委員懇談会 11月8日（金）



「ただみ・ブナと川のミュージアム」セミナー室において、平成 25 年度只見町ブナセンター運営委員懇談会が開催されました。

町内の運営委員および事務局の併せて 14 名が出席しました。

ブナセンター館長の鈴木和次郎の挨拶をはじめに、渡部勇夫ブナセンター長の司会進行で意見交換が行われました。

はじめに平成 25 年度上半期の事業報告および下半期事業計画の説明が行われ、この内容を受けて運営委員からの質疑や意見を伺いました。

只見町小中学校校長会のお二人からは、学校関係者に対してブナセンターの利用を積極的に呼び掛けることが提案されました。事務局からは、前向きに対応するとの回答がありました。

運営委員からはブナセンター事業について一定の評価が示されたほか、予定されている企画展や講座に対する期待が伝えられました。また、広報の迅速化、観察の森の利活用の推進、体験型メニューの導入、ガイド等の人材育成、町民との対話の充実が提案されました。事務局からは、町の他施設や団体と情報共有を強化し、顔の見える付き合いを進めていきたいとの回答がありました。

最後に目黒邦友運営委員長より事務局スタッフに対して、最近のブナセンターに感じている事が質問され、より多くの方に利用していただきたいということ、お客様への対応を向上させたいという回答がありました。ブナセンター長より運営委員に対し、貴重なご意見をいただいたことにお礼を申し上げて、閉会となりました。

■ブナセンター講座 〈ツキノワグマの生態と付き合い方〉 11月10日(日)



山崎晃司氏（茨城県自然博物館動物研究室主席学芸員）をお招きし、“ツキノワグマの生態”と“今起きているツキノワグマと人との軋轢”について、ツキノワグマの生息状況や分布域なども踏まえて、私たちは、こういった“付き合い方”を考えていくべきなのか、ご講演をいただきました。

まず、クマとはどういった生き物なのか説明がありました。世界には8種類のクマが生息しており、それぞれの生息地によって、肉食、昆虫食、極端に偏った植物食、雑食と様々な環境に適応しています。日本には、本州にツキノワグマ（アジアクロクマ）、北海道にヒグマの2種類生息しています。

ツキノワグマについて、子熊だと思っても実は成体の可能性があるという事や、冬場冬眠するのは寒いからではなく十分な食料が得られない為という事など、意外と知らないことがあり、聴講された方からも様々な質問が上がりました。

ツキノワグマとの軋轢については、農作物への被害や人身事故等の発生について、関東での割合を見ながら、どのような傾向があるのかという事を説明していただきました。

昔と違い、ツキノワグマの生息域と人間の生活圏の間にあった緩衝地域が消失し、クマが人里に降りて来やすくなっているそうです。人身事故については、レクリエーションなどで、クマの生活圏へ立ち入った場合に遭遇した割合が多く、自分たちの存在をクマに知らせる熊鈴などの携帯が重要だということがわかりました。クマは臆病な動物なので、ほとんどの場合クマが気付いてその場を離れて行くそうです。

その他、人を獲物と認識したと言えるようなツキノワグマの人身事故の報告事例や、山崎晃司さんが、ツキノワグマの調査の時に襲われそうになった話、針葉樹に含まれる成分に酔っぱらったクマの映像を見せていただきました。

当日は、30名の方が聴講され、ツキノワグマに対する理解を深める講座となりました。

【今後の活動予定】

■2013年度只見町ブナセンター行事予定

開催時期	行事名	備考
10月12日～ 12月28日(土)	企画展 只見の野生動物とその生態	只見町にはどんな野生動物が生息しているのか？その生態と人との関わりを紹介します。
11月30日(日)	秋の料理教室 只見の秋を食べる！そば料理教室	講師：平出美穂子 氏 只見町で採れたそばを料理します！
1月～3月	企画展 ～田子倉ふるさと館展～ 旧田子倉集落の生活と文化	田子倉ふるさと館に展示されている旧田子倉集落の資料をお借りして、企画展示を行います。
1月11日(土) ～19日(日)	町外展 〈県外展示・宇都宮展〉 「自然首都・只見」展	開催地：栃木県立博物館にて開催
2月16日(日)	ブナセンター講座 只見町の農村歌舞伎	講師：渡部康人 氏 （南会津博物館）
2月予定	冬の料理教室 予定	講師：平出美穂子 氏
3月上旬予定	ブナセンター講座 雪食地形と植物	講師：小泉武栄 氏 （東京学芸大学）
3月上旬予定	自然観察会 冬のブナ林を歩く	観察地：下福井（観察の森を予定）